





スキールフトが停止した場合、管理者はまず乗客に状況を説明し、それから救助計画に従って乗客を救出します。この救助計画は書面で作成し、乗客を救出するために必要な人員、装備、方法の詳細を記載しておく必要があります。事故の発生から乗客すべてを安全な場所へ避難させるまでの時間は、3時間30分を越えるべきではありません。多くの場合、乗客の救出はリフトのオペレーターによって行われます。困難な状況では、オペレーターは組織的なレスキュー隊に救助を要請する必要があります。スキールフトからの救出には、ケーブルに沿ってアクセスする特殊な技術が必要となります。作業効率を高めるため、救出作業は複数のチームで同時に進行する必要があります。各チームは2人で編成され、1人はケーブル上での救出を行い、もう1人は地上からケーブル上の救助者の安全確保を行うと同時に地上に降り立った乗客のサポートを行います。救出作業を成功させるには、スタッフが適切な訓練を受けていること(少なくとも年に一度)が必要になります。



AVAO® BOD FAST

『アバオ ボッド ファスト』は作業時の快適性を高めるようにデザインされたフォールアレスト及びワークポジショニング兼用ハーネスです。X字型の背部の構造が、長時間吊り下って作業する際の圧迫箇所を少なくします。ファストバックルが付いているので装着しやすく、また装着のたびにサイズを調節する必要がありません。

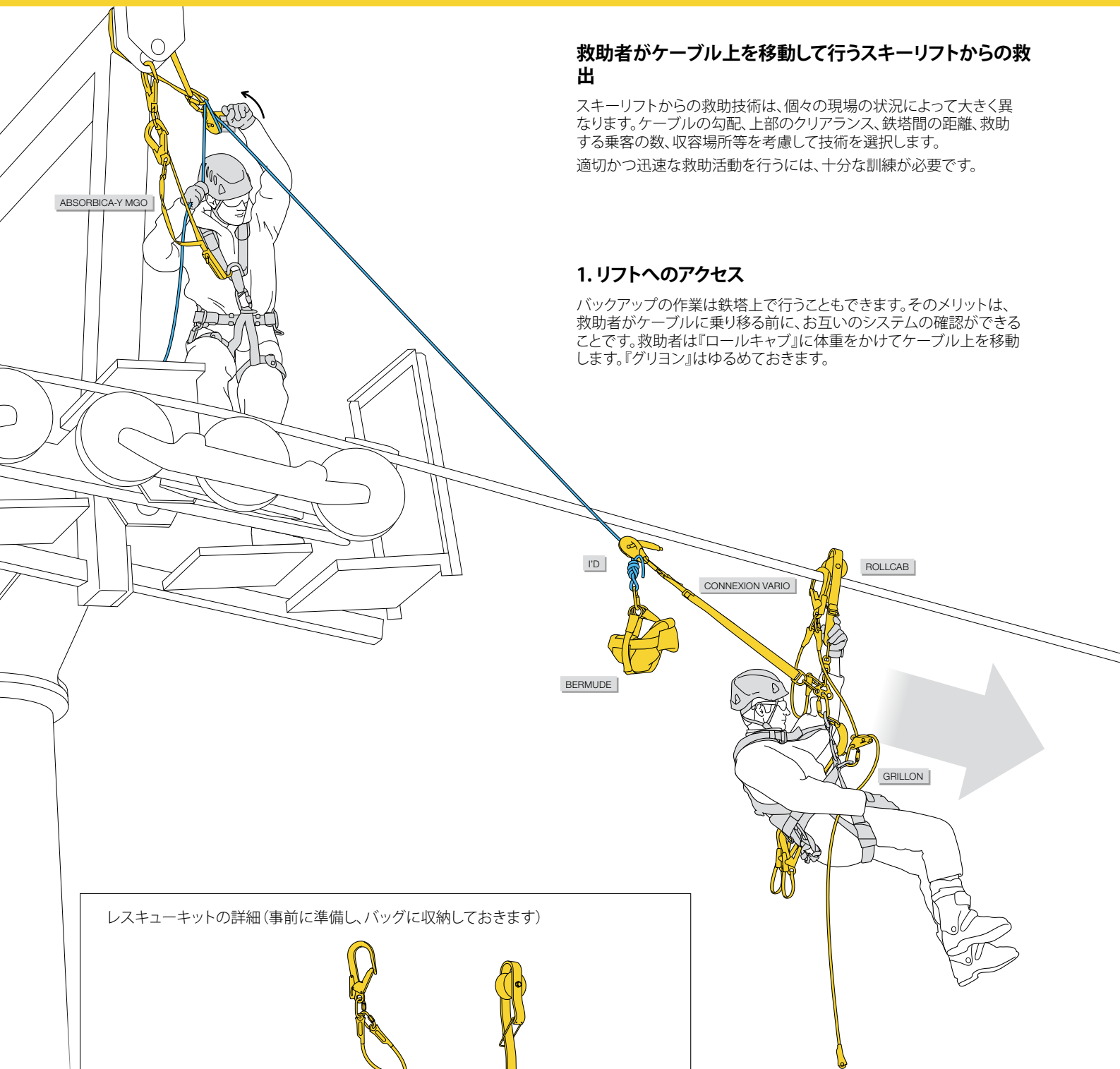
救助者がケーブル上を移動して行うスキーリフトからの救出

スキーリフトからの救助技術は、個々の現場の状況によって大きく異なります。ケーブルの勾配、上部のクリアランス、鉄塔間の距離、救助する乗客の数、収容場所等を考慮して技術を選択します。

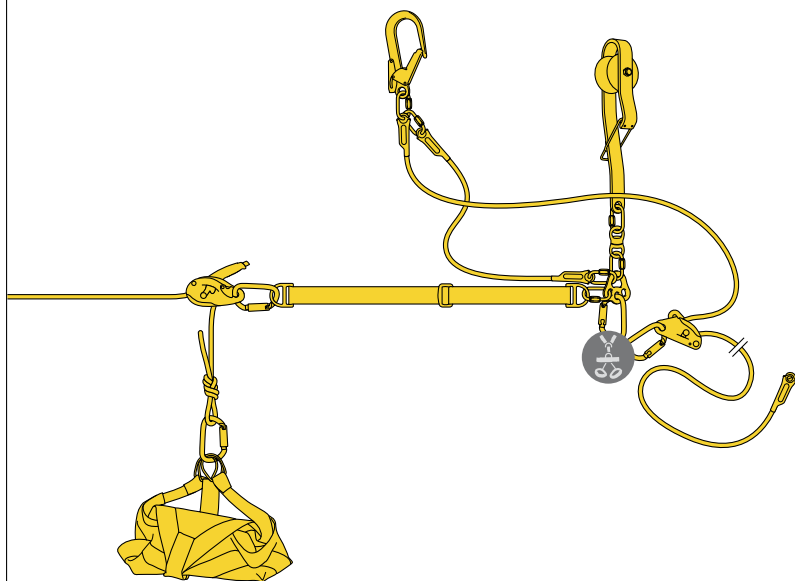
適切かつ迅速な救助活動を行うには、十分な訓練が必要です。

1. リフトへのアクセス

バックアップの作業は鉄塔上で行うこともできます。そのメリットは、救助者がケーブルに乗り移る前に、お互いのシステムの確認ができることです。救助者は『ロールキャブ』に体重をかけてケーブル上を移動します。『グリヨン』はゆるめておきます。

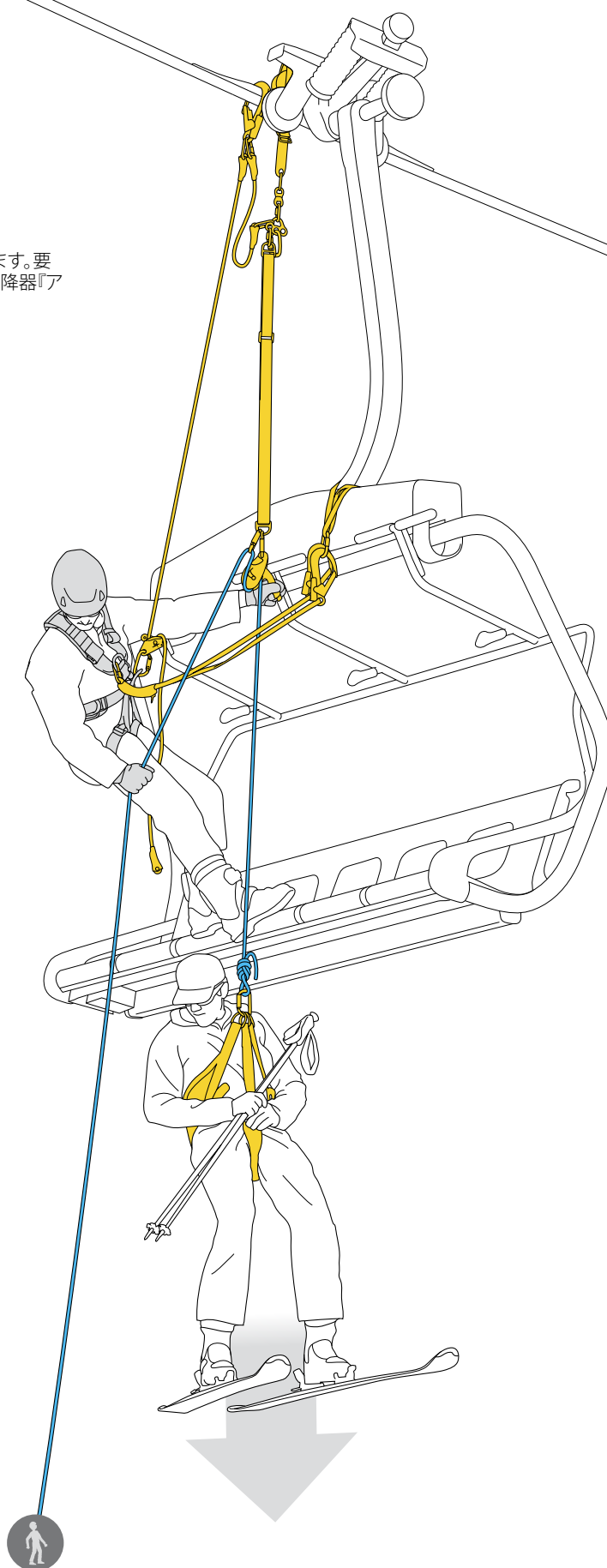


レスキューキットの詳細 (事前に準備し、バッグに収納しておきます)



2. 要救助者の救出

救助者は『グリヨン』で座席部分まで下降します。要救助者にハーネス『バミューダ』を装着し、下降器『アイディ』で下ろします。



こちらに掲載した内容はすべてを網羅するものではありません。他の項や取扱説明書、技術資料もご参照ください。技術的なトレーニングも必ず行ってください。